



特集 「途別川物語」より

# 大正金時

町民文芸

まぐべつ

第18号・2002

途別といえばまず水田を思い浮かべる人が多いだろうが、大正金時が生まれたのも途別である。

畑作物の品種改良に熱心だった途別の中村豊語は昭和9年に作付していた金時の中から一株の変種を発見した。

この金時の変種はサヤが固いので脱穀機にかけることができそうだということで脱穀したものをさっそく作付したところ、見事収穫できたのが始まり。

札内金時、中村金時という仮称で作付がどんどん増えていき、昭和13年の幕別村農会主催の品種改良競技に「鶴金時」という名称で出品し入賞した。

十勝農業試験場では、中村豊語が選抜した鶴金時を取り寄せ、各種の比較試験を行い、十勝に適した品種であると推奨した。

この鶴金時はのちに大正農協で大々的に作付を奨励し大きな成果をあげたため銘柄名を「大正金時」とした。